

経営 粉飾決算など、会計不祥事を減少させる根本的な対応とは?

会計監査がどれだけ発達しても、なくなることはない企業の不正。その解決策について、会計倫理の視点からアプローチする。

どんな職種や業界でも会計がわかっていると、強い

会計や簿記と聞いて、「何だか難しそう」、「取っつきにくい」といったイメージを持つ人はきっと多いでしょう。そういう私も、まさにその一人。会計や簿記を熱心に学んだとはいえ、いままま大学を卒業し、メーカーに就職。しかし、そこで初めて、会計的思考や知識の必要性に直面しました。私は製品開発を担当していたのですが、製品開発はただ新しい機能や性能を考えればよいというものではありません。その製品を製造するためにかかる費用、そして販売によって生まれる利益といったことも、細かく検討しなければいけなかったのです。

この経験から会計の大切さを痛感した私は、仕事を辞めて大学院へ。そこで、会計の面白さにぐんぐん引き込まれていきました。大学時代は食わず嫌いだっただけで、基本がわかれば特に難しいわけではない。むしろ、会計がわかれば、今まで見えなかったことが見えてきて、新しい発想も生まれてくる。それを製品開発や企業戦略に活かせば、より説得力のある展開が可能になることがはっきりと理解できました。

会計、簿記とは、経営者や経理担当者、公認会計士などの専門家だけが必要とするものではありません。営業職やクリエイティブ職、研究職、事務職、専門職、どんな職種や業界であっても、仕事に活かせる知識であり、スキルなのです。そう考えると、皆さんも会計を学ぶことに、ぐっと興味がわいてくるのではないでしょうか。

財務諸表の記載内容が適正かチェックするのが会計監査

会計の中にもさまざまな分野がありますが、私は、企業が作成した財務諸表が適正かどうか監査する**会計監査**を専門分野としています。財務諸表とは、企業の経営状態を外部

に対して提出する診断書のようなもの。大きく分けて、損益計算書、貸借対照表、キャッシュフロー計算書という3つの決算書からなっています。用語は耳慣れないものばかりですが、企業活動としてのお金の流れを明記した書類、といえばイメージしやすいのではないのでしょうか。その会社が儲かっているのか、あるいはどんな資産を持っているのか、また逆にどのくらい負債を抱えているのかといったことが、ここから読み取れるわけです。

財務諸表は、一定の会計基準に基づいて作成されます。しかし、この財務諸表を作成するのは当事者である経営者ですから、そこには不正や虚偽といった問題も起こりかねません。そこで、上場企業などでは、財務諸表が適正かどうか第三者である公認会計士または監査法人による監査を受けることが、法律で義務付けられているわけです。

本当は儲かっていないのに儲かっているように見せかける粉飾決算など、企業の不正を発見することも会計監査には求められます。会計監査には130~140年の歴史があり、この間にどんどん発達してきました。しかし、その一方で、企業側の不正を行う手口もより巧妙になっていくという、イタチごっこになっています。そこで、もっと根本的な対応を取るにはどうすればいいかと考え、たどり着いたのが会計倫理の研究です。

会計に携わる人すべての倫理性を高めることが重要

会計倫理の研究は、3つの段階に大きく分けられます。まず、会計基準自体を見直し、倫理性を取り込んだものにしようとしたのが、第1段階。その後、監査にあたる公認会計士が企業と共謀するなどして、意図的に虚偽の財務諸表を作成するといった会計不祥事がクローズアップされたことで、公認会計士が遵守する倫理規程などを制定すべきといった声が高まります。



その人の内面的な倫理性というのは、外からでは判断できない。そのため、どうしても外観的な判断基準に頼ることになる。しかし、倫理規程を守っているだけで倫理的に行動しているのかというと、そうではない。内面的な部分で倫理的に行動できるかどうか重要なのだ。

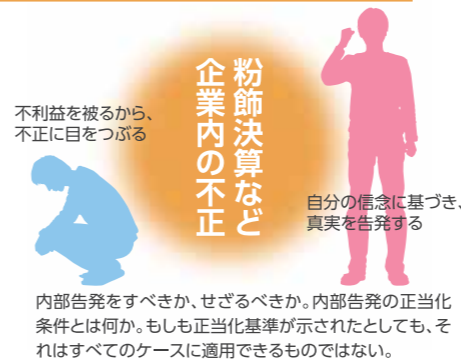


◆ 吉岡 一郎 教授

◆ YOSHIOKA Ichiro
修士(商学)。おもな研究テーマは、財務会計監査論。大学の商学部を卒業後、メーカーに就職し、製品開発などに約6年間携わる。仕事を通して会計知識の必要性を感じ、専門的に学ぼうと大学院に進学。そこで、当時はまだ新しい研究分野であった会計倫理に出会い、研究者の道へ。高校時代は、ソフトテニス部と調理部に所属。現在の趣味もテニスと料理で、得意メニューはパエリア。奈良県立敬福高校OB。



イギリスの哲学者、ジェレミ・ベンサムが唱えた功利主義は、「最大多数の最大幸福」を基本原理としている。できるだけ多くの人々に最大の幸福をもたらすことが善であるとする考えで、アメリカやヨーロッパにおける社会倫理や公共政策などの基礎とされている。しかし、この功利主義が会計倫理に、そして日本の社会や企業に適用するかどうかは、検討されるどころだ。



Point of The Lecture

本文中に出てくる重要なキーワードや参考文献。これらによって、より深く先生の研究が伝わるので、独自に調べてみよう。

☆Key Word

会計監査／コーポレート・ガバナンス／功利主義

○Reference

『会計不正—会社の「常識」監査人の「倫理」』
浜田康著(日本経済新聞出版社)
粉飾、偽装、資金の不正流用など、なぜ会計不祥事はあとを絶たないのかをわかりやすく解説。
『20歳になったら知っておきたい会計のはなし』
古田清和著(TAC出版)
お得な海外旅行のしくみとは?合コンの割り勘の原理とは?出世払いって何?など、身近な話題を取り上げながら考える、会計学入門書。
『半沢直樹』
(ドラマ・DVD) 発売元:TBS 販売元:TCエンタテインメント 好評発売中
大手銀行のバンカー・半沢直樹が主人公。粉飾決算、内部告発、組織との格闘などが克明に描かれている。



しかし、会計基準とか公認会計士とか、それぞれ単独で考えていても無理だということが、わかってきました。そこで現在は、会計に携わる人すべて、つまり、経営者、経理関係者、監査役、公認会計士、ひいては従業員、取引先なども含めた人たちが、どのように行動すれば倫理的かということを考えることで、粉飾決算などの会計不祥事の減少につながるのではないかと、第3の研究段階へと進んでいます。

皆さんは、**コーポレート・ガバナンス**という言葉聞いたことはありませんか。これは、企業統治と訳されますが、企業の不正行為を防止し、企業価値を高めていくためのしくみのこと。私が取り組んでいるのは、このコーポレート・ガバナンスの考え方に近いといえるでしょう。現在、経営者や公認会計士、弁護士、法律学者、会計学者などとともに、コーポレート・ガバナンスの研究会を立ち上げ、研究を深めているところです。

日本社会にフィットする日本流の会計倫理を研究

例えば、あなたが勤務する企業が粉飾決算を行っていることを知ったとしましょう。そのとき、あなたはどの行動すべきなのか。不正を告発することで、社内的には厳しい立場に立たされるかもしれません。さらに、企業のイメージダウン、業績悪化などにより、不正に関係のない多くの同僚に影響を与えることも考えられます。しかしその一方で、告発によって公益を守ることができるとしたら……。

もしも、内部告発の正当化基準が示されたとしても、それはすべてのケースに適用できるものではないでしょう。また、自己利益の脅威(threat of self-interest)といった内面的な問題に、いかに対応すべきかも考えなければいけません。このように、内部告発をテーマとして、会計に携わる人たちの倫理的水準の

測定、向上に有効なツールの開発についても研究を進めています。

会計倫理とは、応用倫理学です。そのため、どういった倫理の考え方に即するのがいいのか、といった点が重要になります。今までの研究では、ベンサムらが唱えた**功利主義**を基盤とした考えが中心となってきました。しかしながら、欧米で生まれたこの考えが、日本社会においてどれだけ普遍性、妥当性があるのかという点、それは疑問の残るところです。

応用倫理学である以上、さまざまな考え方があって然りです。また、その時代、時代に合わせて、適用の仕方も変わってきます。だからこそ、今の時代にフィットする、日本流の会計倫理があるのではないかと。そのテーマを追究し、会計学における会計倫理の概念をしっかりと確立したいと考えています。

👏ポイント! 高校生のための経営学

企業活動の付加価値を知る

経営学とは、どうすれば社会が良くなるか、人々が幸せになれるのかといったことを、さまざまな視点からアプローチしていく社会科学の一つです。では会計は、どのようなかたちで社会や従業員たちを幸せにできるのか。会計を知っていれば、自分たちの行動や企業活動がどのような付加価値を生み出しているのか、結果としてきっちり把握できます。また、結果を測定するだけでなく、どうすればもっと利益が出るのか、結果を想定しつつ行動を考えることができます。つまり、利益をアップさせたり、人々の役に立つ製品開発をしたりと、さらなる付加価値を生み出すことにもつなげていけるのが、会計という学問です。会計は、決して難しいものではありません。自分の経験から学生にもよく言うのですが、会計や簿記を学び始めたときの感覚は、初めて英語を学び始めたときのそれに似ていると思います。英語の単語や文法のように、初めて耳にする言葉や計算式に最初は戸惑うでしょう。それでも、集中的に学んでいくうちに少しずつ理解でき、面白くなっていくものです。大学での4年間は、まさにそのための絶好の期間だと思います。